琉游舎
Ryu Yu Sha
Place to pray, play and progress

アトリエ琉游舎だより 70号

アトリエ琉游舎 ryuyusha.com/
琉游舎for healing https://toi101izuru.wixsite.com/mysite-3
2020年1月15日発行

寒中に春を想う

〇ちょっと気が早いようですが、いちばん寒い寒中の時期に春を想ってみたらどうでしょう。
〇二十四節気は古代中国で作られた暦で1年を24等分し、それぞれに名前を付けたものです。冬の節気は立冬（11月上旬）小雪、大雪、冬至、小寒、大寒。今年の寒中（小寒・大寒）は1月6日から2月3日までです。大寒は冬の最後の節気、大寒の次は立春となります。
〇一年で一番寒いこの時期を乗り切れば春の節気がやってきます。大寒の寒さの後は暦の上では春です。だからこの時期に春を想うことは突飛なことではありません。
〇今年は暖冬で雪不足。スキー場は商売にならないようですし、今から田植時期の水不足や春野菜の不作が予想されています。やはり冬には冬らしい寒さがあってこそ経済や自然の営みがスムースに回っていくのでしょう。
〇とは言いながら暖冬は電気代や石油代も節約できるし、服も着込まないですむので活動的。道が凍結して転ぶ心配もない。畑の大根もまだ凍みることなくほったらかしでも大丈夫。
〇昨年はとうに収穫してベランダで保存していた白菜もまだ畑にいます。と安心していたら白菜の表面には黒い糞らしきものが点々。寒中に春を想ってしまったので虫たちも春と勘違いして這い出てきたのか、越冬する新種の虫が出て来たのか想像の域を出ませんが、春から続く畑の虫たちとの格闘と共棲はどうやら年中終わりがないようです。

1・2月のスケジュール

月	火	水				
			16 映画会 13:30	17	18	19
20	21	22	23 映画会 13:30	24	25 居酒屋の会 16:00	26
27	28 読書会 13:30	29	30 映画会 13:30	31	2月1日	2 写経会 13:30
3	4	5	6 映画会 13:30	7	8 詩話会 13:30	9
10	11 読書会 13:30	12	13 映画会 13:30	14	15	16
17	18	19	20 映画会 13:30	21	22	23

読書会
1月28日(火)
2月11日(火)
13時半から

写経会
2月2日(日)
13時半から

居酒屋の会
1月25日(土)
16時から

詩話会
2月8日(土)
13時半から

映画会
毎週木曜日
13時半から

狂言綺語…大聖堂

琉游舎
Ryu Yu Sha
Place to pray, play and progress

街中至る所で歩きたばこをする人たち。地下鉄で携帯電話に向かって大声で話をする人たち。美術館の絵の前で自撮り棒で写真を撮りまくる人たち。芋を洗うような混雑の中やっと辿り着いたジュリエットの家という名の架空の名所。信仰の場所に入るための長い行列と高額な入場券と手荷物検査。寒空の中１時間半も待ち続けたレーンの横を次々と通り過ぎて建物に吸い込まれていく案内人に先導されたいくつもの集団。

先日35年ぶりにイタリア旅行に出かけたときの「？」と感じた光景を無作為に書き留めてみました。最近私は大都会の雑踏や観光地などからは縁遠くなっていたため、日本でも同じような状況か判断はできませんが、少なくとも銀座の歩行者天国で歩きたばこをする人はいないでしょうし、山手線の中の電話もたまに見かけても大概遠慮がちに喋っています。日本が変わったのかイタリアが変わっていないのか、観光地の特別な光景なのか分かりませんが、少なくとも35年前はイタリア人の生活の息づかいが感じられる街を旅していたのですが、今回はツアー客（旅行会社）のためにシステマチックに整備された観光地を観光のために観光していた印象が強く感じられました。ツアー客には特別の入場レーンや予約方法があるため、何事も時間通りに効率よく自動的に名所旧跡に連れて行ってくれます。ところが自由行動になったとたんとても不便になるのです。予約なく出かけた美術館は陽の当たらない城壁の冷たい壁沿いに長時間並びました。その横を予約のある団体が次々に通り過ぎていきます。やっと入場できたと思ったら、中はひどい混雑。有名な絵画の前は写真を撮る人だらけです。ふらっと来て好きな絵の前でしばらく佇んで時を忘れるなどという経験はとうてい味わえません。美術館は入場料が高くて敷居の高い場所です。35年の年月がイタリアの街を自由に旅を満喫できる観光地から、効率かつ画一的な観光のための観光地へと変えて行ってしまった気がします。

イタリアの街には教会がたくさんあります。そこはキリスト教カソリック教徒の人たちの信仰の場。たとえ観光で訪れた仏教徒であろうとも、ここは頭を垂れ静かに人々の祈りの声を聞くべき場です。ミラノ、ベネツィア、フィレンツェ、バチカンと誰もが観光で訪れる大聖堂に私も足を運びました。有料・無料・待ち時間の長短などまちまちでしたが、荷物検査だけは必ずあります。信仰への尊重の心を持って大聖堂の中に足を踏み入れるはずが、そんな感情を一気に吹き飛ばしてしまうような無粋な関門です。私はその瞬間に宗教家から物見遊山の観光客に早変わりしてしまいました。テロなどを警戒した対応なのでしょう。実際教会が襲撃され犠牲者が出る事件も起こっています。私はその事実を聞くたびに、宗教家として宗教について懐疑的な心境になってしまいます。宗教は寛容、慈悲、平和などの言葉と強い親和性があると信じたいのですが、実際のところ狭量、冷酷、戦争という言葉の方がぴたりと当てはまってしまうことの方が多いのです。猛反発を承知で「宗教の名の下に行われる平和活動や人道的支援は、宗教という名の下に行われる戦争や迫害を隠蔽するための手段あるいは免罪符である」と極言してしまいたくなります。一人一人の信仰の根底は「愛」であってもそれが組織されると容易に「憎」に変貌してしまうことが可能だという事実を、私たち宗教家は認めなければなりません。宗教家はその認識から日々の行いを歩んでいかなければならないのです。

カソリックの総本山サン・ピエトロ大聖堂も私にとっては単なる観光地の一つとなってしまいました。これは宗教家としてあるまじきことなのか答えようがありませんが、私の信じる「信」のあり方からすればあたり前のことなのです。35年前は物見遊山の観光客としてなんの逡巡もなく見物することが出来た大聖堂が、僧侶となった今、他宗教への心理的な抵抗や僧体（剃髪）の合掌が不自然に見えないかなど、躊躇し立ち止まってしまう事態が起こるのではないかと直前まで頭を悩ませました。しかし何のことはありません、荷物検査と言う関門がそれらの躊躇をすべて吹き飛ばしてしまいました。信仰の場に入るために入場料や関門があるという場所は私にとってはもうすでに信仰の場ではありません。大聖堂に限らず清水寺も東大寺も東照宮にも、そこにある数々の仏像や絵画にも、私は今まで一度として宗教的な感覚を味わうことができなかったのです。その理由が今度のイタリアの大聖堂巡りでよく分かりました。信仰の場は自分の「信」との対話の場です。対話の相手は仏像や建物や絵画ではなく「教え」です。それはその宗派の宗祖の言葉にあるのではなく、人が幸せに豊かに心安らかに過ごすための「行い」にあるのです。その教えと対話する場所に必要なものは自由と平等です。法華経の教えで言えば「遊行」と「一仏乗」。つまり「融通無碍にありのままに行う」ことで「誰もが仏になることができる」ということです。この自由と平等の二つが存在する場が私にとっては信仰の場です。それは観光地の有名な大聖堂や社寺にあるのではなく、日々の生活の中にあって自らの行いによって作り上げていくものなのです。そのことが改めて確信できたイタリア旅行でした。

今回の旅行の楽しみの一つは昼からワイン三昧で過ごすことでした。しかしレストランのテラス席で見る光景はミネラルウォーターばかり。最近のイタリア人は勤勉で真面目になったようで、35年前のワイングラスを傾け陽気に食べ呑み語る彼らの姿は消えてしまったようです。グローバル化が進むと名所旧跡自然は変わらないままでも、それを管理・運用するシステムや人情というものは画一的で民族性が希薄になってきてしまうのでしょうか。旅行システムがビジネスとして整ってくると平準化した効率的なサービスをお金次第で受けられるようになる一方、旅の情緒が失われてくるのではと、日本酒好きの坊さんはまたもう一杯ワインを注文するのでした。（出琉）

琉游舎：戸井　出琉・恭子
お問い合わせ先：0287-53-7848　08033508152
矢板市大槻2319－17コリーナ矢板Ｃ－８５０